

三菱重工業 横浜製作所の津波対策と工場見学 (10月5日)

東京湾内の津波は、東海地震の場合でも1メートル未満と予測され、対策が必要とはされていなかった。しかし、3月11日の東日本大震災では、横浜港で1.6メートルの津波が観測された。

また、横浜市より1703年の元禄地震をモデルに満潮時に最大で標高3メートルというガイドライン(骨子)が提示されたことから、三菱重工業の横浜製作所ではいち早く対応をまとめ、今回、その内容を研究会員へ説明いただいた。

三菱重工業 横浜製作所の津波対策

津波高さ：台風時などの計画高潮位より5メートル(海拔6.8メートル)を想定

避難場所：指定建屋の3階以上に避難。避難スペースは一人当たり1平方メートル

襲来時間：地震発生から20分で津波襲来を想定

避難時間：避難放送から、金沢工場は12分内、本牧工場は15分以内に避難完了を目標

全所一斉・津波避難訓練の実施

8月に津波避難訓練を実施し、全員が目標時間内に避難を完了出来ることを確認した。課題として、屋外などで避難放送が聞き取りにくいことが判明したので、サイレンへの変更を検討中。また、



事業所紹介をする牧浦所長(副会長・防災委員長)

津波避難場所や避難通路の表示、地上にある緊急時用備蓄品の高所への移動などを計画中。

発電設備の説明と見学

横浜製作所で製造している発電施設(ボイラー、タービン、自家発電用エンジン、風力発電など)の特徴や需要動向の説明を受け、製造工程を見学した。震災直後には、夏場の電力不足を補うため、ガス・ディーゼルエンジンの発注が増加したが、納期までに無事納入したとのこと。

工場見学後は、工場内の金沢会館にて懇親会を開催し、研究会員同士のネットワークづくりと情報交換を行った。